

外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線治療科、歯科口腔外科、救命救急科とバラエティーに富んでいます。

昨年の手術件数は6,000件あまりで麻酔科管理症例は4,400件になります。この数は大阪市内で第3位であり、大阪大学関連施設の中でも大学病院に次いで2番目に多い症例数となっています。

当院の麻酔科医は現在スタッフ研修医併せて14名です。私自身は現在副部長ですが来年度より部長となる予定です。

麻酔科の活動フィールドは拡張してきており、手術麻酔の他にも集中治療、疼痛管理、緩和医療の分野で他領域のスタッフと協働で診療に当たっています。

現在力を入れているのは周術期管理チームの運営で、最近の傾向としてその重要性が多くの施設で認識されるようになってきています。

当院でも高度な技術を用いた手術が増加する一方で、ASA3以上の重症患者の割合も13%を超えて増えてきています。それにもかかわらず入院は手術前日に行われることが多いため手術を受けるための準備期間は極めて短く、疼痛緩和を含めた術後管理も効果的に行われていないため重症例では入院期間が長くなる傾向がありました。そこで医師、看護師、薬剤師、歯科衛生士、管理栄養士、理学療法士、医事課を含む多職種による周術期管理チームを立ち上げ各々連携することでチームが介入した患者は全員誤嚥性肺炎を起こすことなく退院可能となってきており病院経営にも一役買っています。こうした活動に関しては病院のPR紙、学会報告、論文、セミナーでの講演などで活動内容を発信しているところです。今後もスタッフとともに新しい活動分野の開拓と気持ちよく仕事ができる環境整備を進めていく予定です。ですので若手の先生方で当院麻酔科に興味をお持ちの方がおられましたらご連絡をお待ちしています。

連絡先：tkita@cvn.bai.ne.jp

折角クロスバイク買ったのに最近乗ってない。

「へえっ！」の折り紙

こどもクリニック北 北 知 子

琉大卒業後、小児科に足を踏み入れ、小児循環器に顔を突っ込み、その後小児科クリニックを開業して・・・もう6年になります。

開業する時、とにかく常に「変化」のあるクリニックにしようと考えました。足を向ける度にほんの少し何かが変わっている、いつも何か新しい情報が得

られる、そんな成長し続けるクリニックをイメージしたのです。

ブログや情報ファイル等色々準備を進める中、やっぱり見た目も「変化」は大事、と考えて作ったのが待合の「飾り棚」です。クリニックは、お家の中で病気と戦っているこども達や、看病のためになかなか外出できないご家族が来る場所です。少しでも「季節」を感じてもらうために、変化のあるディスプレイを展開していこうと思ったのです。

でも、開業準備にはゾットするほどお金が飛んでいきます。棚を作ったものの・・・で、何を飾る？ お金ないぞ！

そこで思いついたのが、「折り紙」です。一枚の紙が形を大きく変えていく、無限の可能性がある「折り紙」は、実はこどもの頃から大好きでした。よし、とにかく最初の1年は折り紙で乗り切ろう！・・・開業直後、暇だからできた決意でした。そして実際に作り始めてみると、これがまた面白くて楽しくて。

大きなラッピング用の紙を使って、ミリ単位で測りながら折ったランドセル。数センチ角の小さな折り紙で同じ形をたくさん作って組み合わせた紫陽花。心電図読解用のディバイダーの先端を使いながら苦勞して折った巻貝は、たくさんの魚やサンゴと一緒に楽しく海底を彩りました。20羽くらい作ったペンギンは、大きな親ペンギン3羽とオルガンを組み合わせて「参観日にお歌を歌うこどもたち」風に。今思うと、よくもまあ作ったものです。

不器用な上に美的センスも皆無なので毎回苦勞しましたが、それでも時々聞こえるこども達やご家族の声がとても励みになりました。

「へえっ！見てみて！汽車ぽっぽだよ〜！」「へえっ！すごいねー。」

「あのディスプレイ、誰かへお願いしたのですか？」

「いえいえ、ウチの院長が・・・」

「えー！？ そうなんですかー！ へえっ！」

こんな会話を壁越しに聞くと、お世辞でもなんだか嬉しくて楽しくて。写真を撮りたい、子供に折ってあげたいから折り方を教えてほしい、そんなリクエストもいただきました。

結局、1年過ぎても少しずつ作品を追加し、いまだにやめられなくなっています。最近ではそれなりに少しずつ患者数も増えて折り紙に没頭する時間も無くなりましたが、時々、頭が疲れた時に机の引き出しの中に隠した折りかけの折り紙に手を伸ばしています。

米粒どころか、ケシ粒くらいの小さな飾りっ気のないクリニック、この飾り棚だけが華やかに毎月変わる「お楽しみ」です。紙で出来たへたっぴな作品